

農林水産業の持続可能性を高めるために

持続可能な農林業を支える種子選抜・肥培管理技術の開発 植物レドックス制御研究グループ

研究目的：生産性の高い品質の種子を選抜し、その品質に応じた肥培管理条件を提供する技術を開発する

種子の潜在生育能力（生育ポテンシャル）を評価する



「苗半作」ということばがあります。これは「いい苗」（健全苗）ができれば収穫量の半分は確保したようなものという意味です。これは経験則ですが、「いい種子」があれば同様に健全苗をつくるのがたやすくなると考えられます。保有する特許技術をもとにして特殊なカメラ技術を開発し生育ポテンシャルを評価し、「いい種子」だけを選別することによって、「いい苗」を作る技術を目指します。

バイオマス（水域や陸域）から農林業（陸域）への資源循環を促進させる資材を開発する

*参考 稲キビ（高粱市）



通常管理



特許技術

ユーカリ（西豪州試験地）

もちろん、植物の生育には、水、光、二酸化炭素のほか、体をつくるための窒素やリンなどの栄養素、そして適当な温度が必要です。「いい種子」があっても育成するための条件いい加減では「いい苗」にはなりません。わたしたちは、保有特許によって生産性を大幅に向上させることができます（*参考）。その特許技術に使う資材を陸域や水域からのバイオマスで製造するための技術開発を目指します。

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
加賀郡吉備中央町吉川7549-1 TEL 0866-56-9450